

登録コード	UAA20500	開講年度	2026				
授業題目	芸術コミュニケーション総合演習Ⅰ					担当教員	金井 直
						副担当	濱崎 友絵
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					⇔	芸術についての深い素養と幅広い理解を基盤として、その専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自の理論構築や仮説検証ができるようになる。
(2)授業の概要	外国語文献の講読を集中的におこない、芸術文化の諸相を、通時的また共時的に、個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題を明らかにする。音楽については、通時的観点からグローバルゼーションや音楽変容を中心としたトピックが扱われる。美術については、とくに芸術概念の変容と拡張に着目する。授業全体としては、芸術文化研究の理論的側面の変遷が示される。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 濱崎 第2回：文献読解（芸術文化研究の理論と方法）金井 第3回：文献読解（芸術文化研究の歴史と方法）濱崎 第4回：文献読解（芸術文化研究の現在）金井 第5回：文献読解（方法の適用、芸術生産について）金井 第6回：文献読解（方法の適用、芸術受容／変容について）濱崎 第7回：文献読解（方法の適用、美学的アプローチ）金井 第8回：文献読解（方法の適用、社会科学のアプローチ）濱崎 第9回：文献読解（方法の適用、表現論的アプローチ）濱崎 第10回：文献読解（テーマへの展開：身体）金井 第11回：文献読解（テーマへの展開：社会）濱崎 第12回：文献読解（テーマへの展開：メディアム・メディア）金井 第13回：文献読解（ジャンル横断的アプローチ）濱崎 第14回：文献読解（領域横断的な方法の検討）金井 第15回：総括（芸術コミュニケーション論の可能性）金井 期末試験の有無 なし						
(4)成績評価の方法	以下を総合して判定する。 各回の授業時の発表（レジュメ含む）30%、ディスカッション30%、最終レポート40% ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、文献を読解し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、文献を読解し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、非常に高い水準にある。 【やや上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、文献を読解し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、高い水準にある。 【その水準にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、文献を読解し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	事前学習として、外国語資料の精読と発表資料作成が不可欠である。事後学習は授業ごとの復習。その集約にもとづく最終レポートを求める。						
(7)履修上の注意	講読を軸とする授業につき、じゅうぶんな予習復習を期待する。 受講者個々の発表のみならず、他の受講者の発表に対するコメントも重視する。 自主的に鑑賞経験を積み上げ、多様な芸術表現についての知識と関心を高めておくこと。						
(8)質問,相談への対応	まず以下のアドレスにメールにて問い合わせること。 kanait@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	なし。ただし各回の内容に合わせて独自に作成した資料をそのつど提供する。						
【参考書】	Philip V. Bohlman(ed), The globalization of world music in history, Cambridge University Press, 2013.他。						